

令和 8 年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 7 月 7 日

評価対象事業	都調 - 04	旧華頂宮邸管理運営事業	☐ 法定受託事務	
所管課	都市調整部 都市景観課		評価者 都市景観課長 奥山 信治	
一般	会計	款 10	項 5	目 50
総合計画上の位置付け	分野名	都市景観	施策の方針名	良好な都市景観の形成

1 事業の目的

対象	市民等	意図	旧華頂宮邸の適正な管理運営を図るため
効果	市民をはじめとする多くの人々が集い、様々な情報を発信していく施設として活用する		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☐ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 年度） ☒ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	旧華頂宮邸の噴水修繕、東アジア文化都市事業関連イベントの開催、建物一般公開の実施、小破修繕の実施、庭園管理業務、暫定活用（撮影利用）、機械警備・清掃等の定常業務	大学と連携した構造等の調査、建物一般公開の実施、小破修繕の実施、庭園管理業務、暫定活用（撮影利用）、機械警備・清掃等の定常業務	建物一般公開の実施、小破修繕の実施、庭園管理業務、暫定活用（撮影利用）、機械警備・清掃等の定常業務
予算額（千円）	20,950	15,352	
国県支出金	3,071		
地方債			
その他	6,059	2,571	
一般財源	11,820	12,781	0
当初人員配置数	1.0	1.0	0.0
人件費（千円）	8,537	8,826	0
事業実績	旧華頂宮邸の噴水修繕、東アジア文化都市事業関連イベントの開催、建物一般公開の実施、小破修繕の実施、庭園管理業務、暫定活用（撮影利用）、機械警備・清掃等の定常業務		
決算額（千円）	18,627		
国県支出金	3,071		
地方債			
その他	3,928		
一般財源	11,628	0	0
人員配置実績数	1.0	0.0	0.0
人件費（千円）	8,283	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標			単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	
	(上段実績、下段経費（千円）)									
活1	指標名	建物公開の実施回数			回	4	7	5		
	実績につながる活動	春と秋2日ずつの建物一般公開に加え、東アジア文化都市事業関連イベントを実施した。						280		

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	春秋の建物一般公開に加え、故障していた噴水を修繕することで庭園の魅力を高め、東アジア文化都市事業関連イベント等を開催し、施設の魅力発信を図った。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1	入場者数	人	4,205	7	10,547			1

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	実績に影響する外部要因はなかった。
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	春秋の建物一般公開や東アジア文化都市事業関連イベントの開催に際しては、積極的に広報活動を行い、周知に努めたことにより、多くの入場者に地域固有の景観資源である旧華頂宮邸の魅力を体感してもらうことができた。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	本事業において、活動結果指標である「建物公開の実施回数」の増加により、「入場者数」という成果指標が増加しており、高い正の相関と寄与度を示した。

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☒ 十分に出ている	☐ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
		関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
	公平性	受益者負担	☐ 導入済	☐ 導入予定	☒ 導入できない
方向性	評価実施年度の方角性		⇒ 評価実施翌年度以降の方角性		
	事業内容の方角性	☒ 事業内容は現状通り	☒ ① 事業内容は現状維持とする		
		☐ 事業内容は見直し済	⇒ ☐ ② 事業内容は見直す	→ ☐ 拡大	☐ 縮小 ☐ その他
		☐ 事業を休止又は廃止済	☐ ③ 事業は休止又は廃止する		
		☐ 他事業と統合済	☐ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する	→	事業へ統合
方向性	予算規模の方角性	☒ 予算規模は現状維持	☒ ① 予算規模は現状維持とする		
		☐ 予算規模は拡大済	⇒ ☐ ② 予算規模は拡大する		
		☐ 予算規模を縮小済	☐ ③ 予算規模は縮小する		

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応	結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果	前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題	新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性	新たに認識された課題はなかったため検討なし		
総評	旧華頂宮邸の保存活用事業により建物の魅力を高め、発信することで、旧華頂宮邸をはじめとした歴史的建造物を生かしたまちづくりに寄与している。			上位施策への寄与度
				A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項	神奈川県内で古い洋館を所有し、維持管理を行っている自治体								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	○				○				
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	近隣県の人口17万人程度の自治体において、歴史的建造物を所有、管理している自治体は本市と小田原市のみであり、他市比較は適切でない。								